

秋まき小麦の

なまぐさ

黒穂病

(その2)

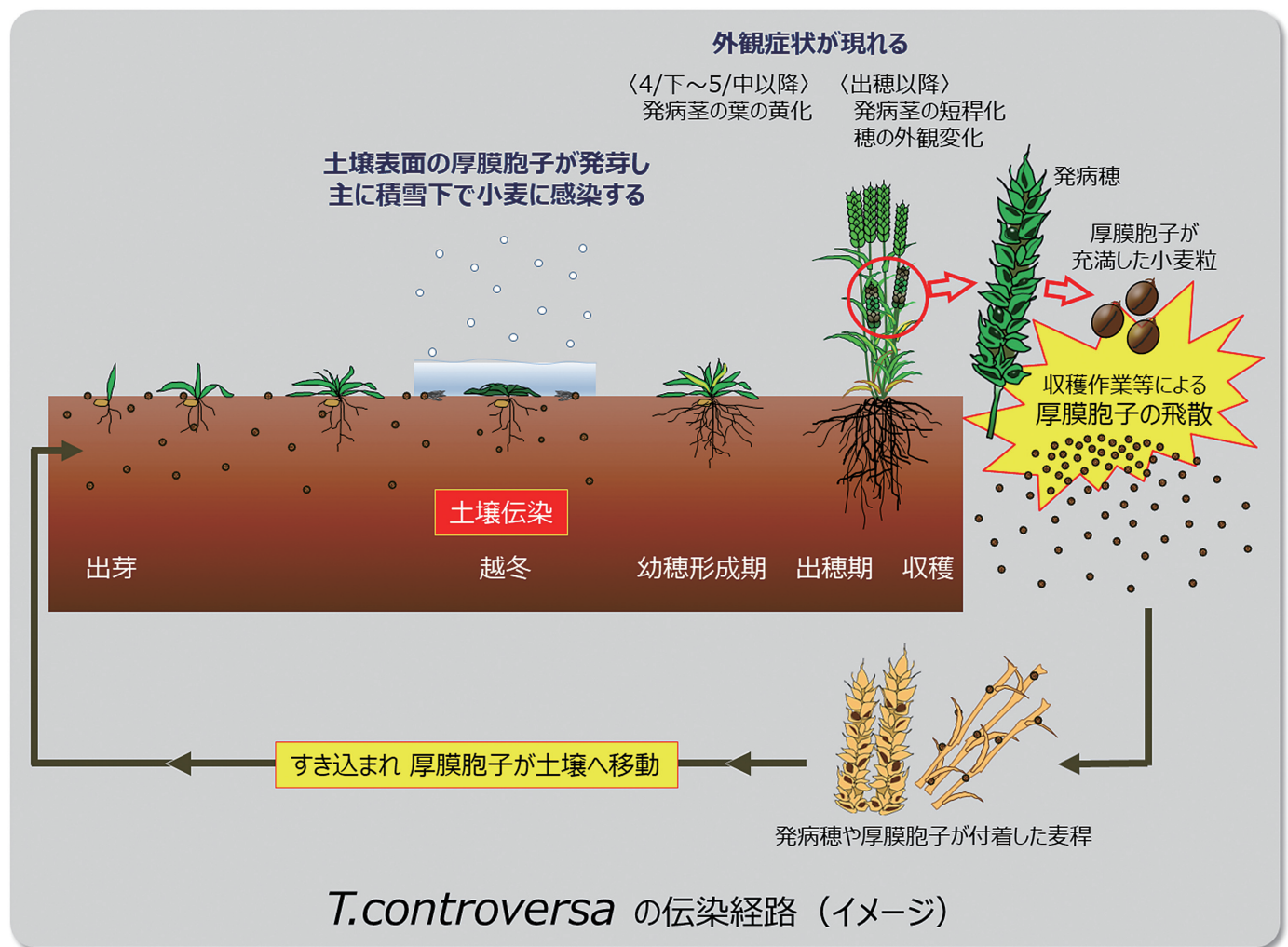
～防除対策・他作物での発病～



北海道・道総研・ホクレン・北集・NOSAI・北海道農産協会

このパンフレットは、生産者拠出（北海道産麦生産流通安定対策事業）を財源に作成しています

なまぐさ黒穂病菌の生活環

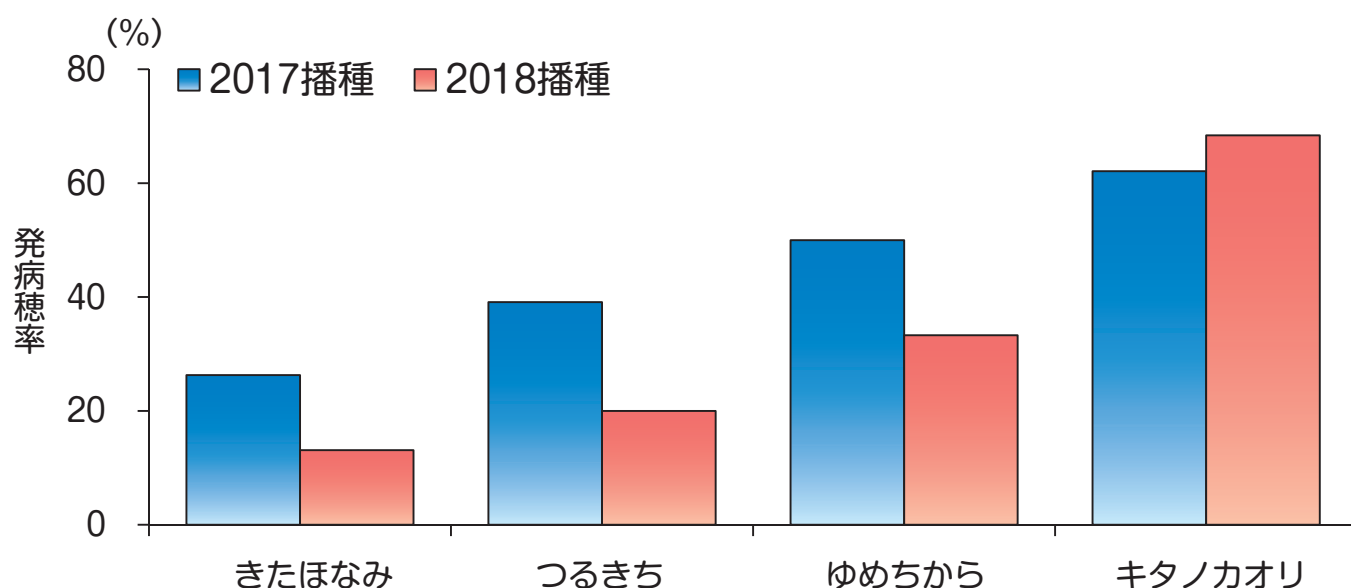


「コムギなまぐさ黒穂病 Q & A・第2版追補」(令和3年2月、北海道農政部技術普及課)より

効果のある耕種的対策

- ① 「連作・過作しない」
- ② 土壌表面の厚膜胞子が発芽して、小麦に感染する
→浅まきは発病を助長する
「適切な深さでの播種」が重要
- ③ 小麦が小さいほど感染しやすい
→播種が遅れると発病を助長する
「適期播種」が重要
- ④ 発病した株のすき込みは、できるだけ深く行う

主要な秋まき小麦品種の発病しやすさ



発病が少ない → 発病しやすい

主要品種の中では「きたほなみ」が最も発病が少ない

他のイネ科作物での発病

なまぐさ黒穂病発生ほ場において

大麦：秋まきでも発病しない

牧草：発病しない

(チモシー、オーチャードグラス、ペレニアルライグラス、
リードカナリーグラスで確認)

ライムギ：秋まきでわずかに発病する

ライコムギ：秋まきで発病する



ライコムギの発病穂

効果のある薬剤と効果のある散布時期

薬剤名	処理方法	使用方法
ベフランシードフロアブル	種子塗沫	原液 5 ml/乾燥種子 1 kg
チルト乳剤25	茎葉散布	750倍 根雪前散布
	無人航空機散布	8 倍・800ml/10a 根雪前散布
フロンサイド SC	茎葉散布	1000倍 根雪前散布

チルト乳剤25は**11月上旬～中旬**

フロンサイド SCは**10月下旬～11月中旬**に散布する

適期の前後での散布では、効果が劣る

最も効果の高い防除対策

① ベフランシードフロアブルの種子塗沫



② 適期に適切な深さでの播種



③ フロンサイド SC の10月下旬～11月中旬散布



品種	播種	薬剤対策	発病穂率 (%)
きたほなみ	遅まき・浅まき	なし	21.9
	遅まき・浅まき	①+③	1.1
	②	①+③	0
ゆめちから	遅まき・浅まき	なし	53.0
	遅まき・浅まき	①+③	4.9
	②	①+③	0.2



3つの組み合わせで、品種によらず発生はほぼゼロに

執筆者：北海道立総合研究機構 中央農業試験場 病虫部 研究主幹
写真提供：前北海道農政部生産振興局技術普及課 総括普及指導員
北海道立総合研究機構 上川農業試験場 生産技術G 主査(病虫)

小松 勉
上堀 孝之
新村 昭憲